

ゆうすい

2018.2.1

No. 108

西原村議会だより



西原村消防団員が
どんなときも村を守ります！

CONTENTS

1月14日 西原村消防団出初式・訓辞を述べる馬場秀昭団長

◎ 12月定例会・主な質疑応答 建築工事入札で不調・不落が… P2~3

◎ 一般質問 地域おこし協力隊誕生か・コミュニティバスは走るのか P4~6

◎ 広報クリニック及び広報委員視察研修 P7

◎ 組合議会報告 P8

◎ よっていきなっせ 知ってますか「ヘッドネーション」活動を P9

◎ 職場からこんにちは P10

西原村災害公営住宅の整備着工

村内2箇所(山西地区45戸、河原地区12戸)に災害公営住宅建設
平成30年7月末完成予定(8月より入居可)

平成29年度一般会計補正予算7億3,225万円を追加 総額132億2,822万円

12月12日から12月15日までの4日間開催された。

平成29年度一般会計補正予算など議案13件(議会提案1件)、専決2件を審議し
すべて原案通り可決された。また、報告2件あり一般質問は3名の議員が登壇し村政
を資した。

歳入(補正予算額)

分担金・負担金	△391万円
使用料・手数料	16万円
国庫支出金	2,805万円
県支出金	4億5,940万円
財産収入	67万円
寄付金	1億1,243万円
諸収入	2,505万円
村債	1億1,040万円
合計	7億3,225万円

歳出(補正予算額)

議会費	18万円
総務費	6億3,928万円
民生費	6,424万円
衛生費	56万円
農林水産業費	672万円
商工費	100万円
土木費	△7,902万円
教育費	420万円
災害復旧費	8,697万円
公債費	44万円
予備費	768万円
合計	7億3,225万円

歳入(主なもの)

◎社会資本整備総合交付金(道路事業)	△3,780万円
◎公営住宅災害復旧費補助金	6,212万円
◎熊本地震復興基金交付金(創意工夫分)他	4億5,221万円
◎ふるさと納税災害復興復旧寄附金	1,940万円
◎市町村振興協会交付金(災害対策支援金)	2,419万円
◎道路新設改良事業(補助事業)	△2,260万円
◎がけ崩れ対策事業(宅地耐震化推進事業)	1億1,000万円

歳出(主なもの)

◎災害復興基金積立金	1億1,244万円
◎平成28年熊本地震復興基金積立金	4億3,500万円
◎道路新設改良工事(補助事業)	△6,300万円
◎平成28年度療養給付費繰出金(精算分)	1,226万円
◎河原団地災害復旧新築工事	7,558万円



主な質疑応答

専決処分

Q にしはら保育園のLED

D 照明設置を専決処分
で村の一般財源のみ使
用している。国・県の補
助金等は無かったのか。
また、なぜ、専決処分な
のか。

A この事業に対して補助

金等は無かった。電気使
用量が上がっていたの
で、モデル事業として提
案があり現在と比較し、
ずいぶん安くなったの
で採用した。

西原村一般会計 補正予算について

Q 復興基金(創意工夫分)

四億二千五百万円につ
いて、どう使用するのか。

A 復興基金は使用目的に

制限があり厳しいが、い
くつか検討している。

Q 歳出還付があっている、
この税目は。

A 固定資産税・住民税の減

免が当初予算の予定よ
り多額になった。

Q 地震で被災された方に

負担軽減等の特別措置
が増設されているが。

A 被災によって代替えを

された家屋の新築・増
築・別件で購入された
物は、4年間その面積
相当の二分の一の特例
がある。

建築工事で 3件の不落

Q 風の里キャンプ場管理

棟整備外構工事、入札不
落(不成立)は。

A 管理棟・ロッジの改修分

を合わせた1件の工事
で入札を再度行なう。
(本年一月末で契約が全
て成立しました。)

Q 復興住宅に住む方で元
の宅地の税金は、どうな
るか。

A 雑種地になった場合、評

価額は約三分の一下が
るが、宅地特例措置はな
くなる。

Q 村外在住の本村役場職員

のふるさと納税状況は。
A 強制は出来ないが納付

をお願いしている。

Q 災害公営住宅が種馬所

に建設されるが、山西小
学校のイベント時、駐車
場確保は出来るのか。

A 今までどおり確保して

いる。

Q 災害公営住宅の入居者
は、確定済みか。

A 入居される方の希望を

聞き決めていく。

Q 河原団地災害復旧工事
について、元々の方が住
むのか新たに募集する
のか。

A 新たに募集する。

Q 風当・畑・万徳に通る用

水路(下井手)は、防火用
水の役割も担っていた
どのように考えている
のか。

A 土地改良区・地元関係者

と調整を行い、早めに流
したい。

Q 農業用倉庫の復旧事業
で支払いトラブルはな
いか。

A 負担額の支払いについ

て、問題は起きていない。

Q 農業次世代人材資金(旧

青年就農給付金)は、西
原村の人だけが使われ
ているのか。

A 全員西原村在住の方で

ある。



Q 災害公営住宅の住居と

駐車場がはなれている。
高齢者・障がい者への
配慮は。

A 高齢者と障がい者の

方々には出来るだけ近
くに駐車場を設けてい
く。プライバシーについ
ては、保健衛生課を中心
に検討する。

陳情審議

陳情の要旨 下小森集落の復旧・復興に向けた集落再生に関する要望

陳情者名 下小森区長 藤本健二

審査の結果

採 択



コミュニティバスの導入は？



堀田 直孝 議員

村長：西原村も検討する時期にきている

〔堀田〕現在、本村において、75歳以上の高齢者に福祉タクシー券の交付があり効果はあるものの、児童生徒を含む全般、特に仮設住宅、今後の災害公営住宅居住者の利便性として、コミュニティバス導入の考えはないのか。

熊本県内17市町村で20のコミュニティバスが運行され、阿蘇郡内においても、高森町、南阿蘇村、小国・南小国町で運行されている。県下17の市町村、約4割弱の市町村が導入し運営が行われている。

交通弱者から「コミュニティバスがあればいいのに」と声があがっている。村としての導入計画は。

〔村長〕西原村も検討する時期に来ていると思う。

高森町、南阿蘇村、小国・南小国町は産交バスに委託している。運行するには、それなりのニーズがどの程度あるか、どのようなコースを回るか、こういった車種で運行するか検討しなければならぬ。

〔堀田〕山都町では、車両を町が購入し、有限責任事業組合に委託でスクールバスを一般活用した運行がされていた。これは、交通不便地域の解消及び河原小学校の複式解消問題にも貢献できるのではないか。

〔村長〕河原小は今のままでは複式学級になる。そういった対策も考えなければならぬ。

震災からの復興中であり、早急に行うことは難しいが、今後、コミュニティバス・乗り合いタクシーの導入についても検討していきたい。



スクールバスを活用した山都町コミュニティバス

役場職員の人事評価制度の目的は？
村長：能力を発揮した者が報われる制度

〔堀田〕本年度より役場職員の人事評価制度が始まった。この評価制度はどのようなものか。

〔村長〕地方分権の一層の推進により、住民ニーズの高度化、多様化に伴い

職員の能力、実績に基づく人事管理を行い、より高い能力を持った職員の育成が必要となっていることに基づくものである。

〔堀田〕既に導入している自治体からは、客観性・公平性・統一性の確保は難しい。制度を明確化すればかえって職員の負担が増したと聞いている。

この評価制度のメリットは何か。また、デメリットはないのか。

〔村長〕職員の仕事ぶりやその結果により、能力を発揮した者が報われる制度としたい。

メリットは、職員一人一人のやる気と働きがい高め、持てる能力の拡大と発揮を促し人材が育成され、組織力の向上により住民の満足度につながるものと思う。

デメリットは、評価者のばらつきを無くす必要があり、評価者のレベルを向上させなくてはならない。

そのためにも、評価する側も勉強・研修しながら進めて行きたい。



再建された新築住宅の評価に追われる役場職員



村上 高志 議員

村道の維持清掃について

村長：地域づくりの一環と捉えており、委託は考えていない

村道の維持清掃について

〔村上〕西原村の村道清掃は、約50年前から始まり、総延長約107・6kmを、春と秋に清掃する行事である。

県内においても、全国的に見ても、このような、村民が一致協力する道路清掃はないかと思われる。

しかし、時代の流れに伴い中山間地では高齢化も進み、昨年4月に起きた地震では、地区を離れる方もおられ作業人員も減っている。

このような状況の中、今後、村道清掃の維持管理を、どのように考えているのか。

〔村長〕毎年村民の方々のご理解とご協力により、道路清掃ができていることに対し心より感謝している。

行事は、地域の交流の場でもあり地域作りの一環だと思ふ。現在のところ、業へ委託する考えはない。

道路品評会について

〔村上〕現在、村では年



道路清掃中

に2回清掃作業が行われている。

一戸当たりの清掃距離が、短い地区で3メートル、長い地区で369メートル、時間で言うと、短い地区で、一時間から二時間、長い地区では2日間かかる。地区ごとにかなりの負担の差が生じている。

品評会において、同じ戸数で、同じ距離を審査するのであれば、平等と言えるが、現在の品評会の審査基準は疑問に思う。品評会の検討は。

〔村長〕コンクールがないならば雑にならないか懸念される。距離の見直しは、検討するが、品評会は今までどおり行う。

有害駆除対策について 〜村で罌の購入を

〔村上〕猟友会のメンバーが16名、その半数以上が70歳以上。このような中、イノシシや鹿については、山間地はもとより、最近では住宅地にまで出没し、農作物や住民に被害を与えている。住宅地等では、猟銃による捕獲ができないため、罌に頼らざるを得ない。村で罌を購入し、住民の相談があった場合は、猟友会に設置してもらってどうか。

〔村長〕有害鳥獣による農作物被害は、全国的な問題である。国でも、鳥獣被害防止総合対策交付金を創設する。本格的に取り組む姿勢を示している。有害鳥獣捕獲の効果を上向きさせるためにも、自己負担などの問題がある。関係団体等と協議しながら、鳥獣被害防止総合対策事業等を活用した貸し出し制度の検討を、進めていく。

猟銃資格取得の助成制度について

〔村上〕資格取得申請手数料として約7万2千円、猟銃等を保有した場合に、約20万円必要である。駆除なくして、農作物や人的被害も増えるばかりである。猟友会の人材育成、負担軽減について、資格取得の費用を一部助成できないか。

〔村長〕今回の質問内容の検討を含め、西原村鳥獣被害防止対策協議会を核として、啓発、研修等にもさらに力を入れることで、有害鳥獣による農作物被害防止に努めていく。



設置中の箱わな

地域おこし協力隊を活用し、 各集落の課題に取り組んではどうか



坂本 隆文 議員

村長：ぜひ取り組んで行きたい

地域おこし協力隊 について

〔坂本〕この制度が始まり8年が経ち、全国各地で4000名以上の方々が地域おこし協力隊員として活躍されている。

西原村もこれからより良い村づくりを進める為にも、本村に合った人材を地域おこし協力隊に募集してみてもどうか。

〔村長〕本制度は各県市町村が設置要項等を作成した上で募集を行い、「都市圏地域から過疎地



近隣町村の地域おこし協力隊会議の様子

域等に住民票を移し、地方公共団体が、地域おこし協力隊として1年以上3年以下の期間で活動しその後、定住して頂くという」もので、この趣旨からも本村において有効性のある制度と思っている。集落再生の工事に着手したなら、事務的・財源的・労力的にも半分終わったも同然と私は感じている。

そうなれば、減少した人口を取り戻し、活気ある村作りなどを地域おこし協力隊に西原村の創造的再生に力を貸して頂きたいと思っている。

にしはら保育園保育士について

〔坂本〕6月に保育士募集があったが応募者がなく、9月議会では派遣会社に3名依頼すると言われた。それでも応募者がなく、現在も2名の募集がされている。

園児や保育園運営を心配している。今後の対策は。

〔村長〕派遣会社から2名の紹介を受けたが、通勤距離で2名とも辞退された。職員の呼びかけで、以前、臨時職員として勤めて頂いた方に11月から臨時保育士として来ていただいている。また、園長が直接、保育の専門学校と大学を回り新規採用の案内をお願いした。

平成30年4月当初、入所児童は155名と予想しており、育児休暇から職場復帰する保育士もあり問題ないと思うが、これからも保育士確保に向け全力で取り組んで行く。

〔坂本〕西原村役場庁舎内の女性職員が年々多くなっていると感じている。震災から復旧・復興と進むと、これから現場での対応が多くなるが、女性職員は現場に出るのか。

〔村長〕現在の西原村職員総数は81名、女性職員は32名、保育士を除けば21名が庁舎内の女性職員になる。現在は現場での業務が多い土木・水道・農林業関係は男性職員が多く在籍している。これからは集落再生事業・災害公営住宅建設事業・農業土木事業等の土木事業が多くなってくる。

職員数も限られており、これからは女性職員の現場等に立ち会う業務やその所属部署への配置も必要であると考えている。

女性職員も現場で安全に仕事ができるよう指導していく。



広報クリニック及び広報委員視察研修

坂本 隆文

熊本県自治会館で広報クリニックと午後は福岡県大刀洗町への広報委員会視察研修を行いました。

今回の広報誌クリニックは今までのやり方と違い、クリニック1ヶ月前に各町村の議会広報誌を配り、他町村の広報誌の評価をするという方法がとられ、西原村の議会広報誌「ゆうすい」も他の町村から評価を受けながらクリニックを受けました。



熊本県自治会館での広報クリニック

- 全体として評価が良い町村議会広報誌は、
 - 写真やイラストを使い視覚的に良い。
 - 研修レポートや委員会活動がよくわかる。
 - 見出しで内容がすぐにわかる。
 - 一般質問も質問と答弁がわかりやすい。
- また、評価が良くなかった広報誌は、
- 議会からの情報が多すぎてごちゃごちゃしている。
 - 村民の参加や声が少ないのでは。
 - 質疑応答では、どの議員が質問したのか書いてよいのでは。
 - 字が小さく年配の方には読みにくいのでは。
 - 製作者は内容を把握して書いているが、読み手側は理解しているのかを考えていく必要がある。

等々の意見をいただき、なるほどと思うこともありました。

午後からは福岡県大刀洗町の広報委員会に議会広報誌作成の研修に行きました。

大刀洗町の広報誌は、町村議会全国広報コンクールで入選された経歴があり、その内容の説明・議会の説明、そして広報誌の作成方法で20分ほどの話をしていただき、あとは質疑応答で進めました。

大まかな内容は、私達の広報誌を作成する方法と変わりませんでした。西原村と違うところは、議会前に集まり、誰がどの担当をするかや、一般質問で見開きに3人の質問を載せる、字が大きく文字数が少ない（文字数を詰めない）、そして空間を大事にし、詰め込んでも読んでもらえない等の話をいただきました。

前回までの議会広報誌作りは、議会終了後に集まり話をしていましたが、今回は早速、大刀洗広報委員会の真似をし、議会前に話し合い、誰がどのページの担当をするのかを振り分けてみました。

私たちも、より多くの方々に議会広報誌を読んでもいただけるよう、そして老若男女に読まれることを前提に考えて行こうと話しました。



大刀洗町議会での広報研修

組 合 議 会 報 告

* 益城、嘉島、西原環境衛生施設組合研修報告

組合議員 堀田直孝

平成29年9月27日から4日間で新焼却炉建設を踏まえた視察研修を、北海道の斜里町のエコクリーンセンターみらいあーる、紋別市の西紋別広域ごみ処理センター、歌志内市の中・北空知エネクリーンセンター、岩見沢市の岩見沢クリーンセンタープラザの視察研修を行った。視察を行った4つの施設はそれぞれ特徴があり、一般ゴミを細かく砕き高温圧縮処理をすることによるバイオ燃料化する循環方式の施設、施設スペースをコンパクトにした縦型ストーカ炉方式を採用し、屋根で覆われた最終処分地を建設。また余熱を利用した設備で蒸気タービンにて発電を行い、発電効率を上げている施設、中にはリサイクル意識の普及向上を目指し、ごみ減量化に力を入れている施設と、多種多様な施設の視察を行うことができた。

これら施設の全てが好調に稼働しているか、ということそうではなく、当初の構想とはほど遠くうまく稼働していない施設、北海道の広大な敷地であるからこそできる施設と、当組合で新たな施設建設に対して課題が発見できた視察であった。

* 阿蘇広域行政事務組合議会の報告

組合議員 桂 悦朗

平成29年第4回阿蘇広域行政事務組合議会定例会が開催され承認3件・認定4件・議案3件が上程。

- 養護老人ホーム湯の里荘の特別会計補正予算等の専決処分承認3件・・・全員賛成で承認

- 平成28年度阿蘇広域行政事務組合一般会計歳入歳出決算認定・・・全員賛成で認定

歳 入 34億8,031万9,000円・・・前年度比 3億7,130万8,000円減

西原村負担金 53,928,000円・・・前年度比 524,000円増

歳 出 33億2,170万1,000円・・・前年度比 4億3,719万6,000円減

※ 歳入歳出減の主な要因

(消防救急デジタル無線及び高機能消防指令センター整備事業が平成27年度で完了。)

- 平成28年度養護老人ホーム湯の里荘特別会計決算認定・・・全員賛成で認定

歳 入 1億9,194万6,000円・・・前年度比 50,645,000円増

西原村負担金 21,530,000円・・・前年度比 8,118,000円増

歳 出 1億9,029万5,000円・・・前年度比 55,813,000円増

※ 施設建設用地購入のため大幅増になる。

- 特別養護老人ホームみやま荘・阿蘇ふるさと市町村圏特別会計決算認定・・・全員賛成で認定

- 一般会計・特別会計等の補正予算3件・・・全員賛成で可決

阿蘇広域視察研修報告

11月20日～22日

● 沖縄県的那覇・南風原クリーンセンター(焼却施設)

施設の主な特徴

◆ 資源物の再利用(破碎選別設備で、アルミ・鉄を選別・回収し、資源として再利用している。)

◆ 最終処分量の削減(焼却灰を灰溶融炉で溶かしスラグ)を生成し、道路資材に再利用し最終処分量を減らしている。

◆ 廃棄物発電施設で発電した8,000kWの60%を施設内の電気をすべて賄い、余った電気は電力会社に売電する。

● 被覆型一般廃棄物最終処分場

屋根および人工盤等で埋立地を覆うことで、埋立て廃棄物の飛散や雨水の流入を防ぎ景観や地域環境に調和し、悪臭・騒音の発生を抑制し浸出水を処理し環境への影響を低減できる施設でした。

※ 処分場の周辺環境への影響を最小限にするため視察研修しました。

よっていきなっせ

知ってますか「ヘアドネーション」活動を

中西義信

ヘアドネーション (31センチの心) とは

小児がん・先天性無毛症などの病気や不慮の事故により髪を失った18歳以下の子どもや女性のために、賛同された全国的美容師さん達が無償で人毛で作ったウィッグ (かつら) を提供する活動です。

白血病や円形脱毛症で悩み苦しんでいる子ども達は沢山います。

人毛ウィッグの良さは、人工の物に比べて見た目がとても自然で学校などでもかつらだとばれにくい点にあります。またアレンジも可能なため、お年頃の女の子などはとても嬉しいウィッグです。

31cm以上の長さがある毛髪の寄付を募り、必要な人のために完全オーダーメイドの医療用ウィッグを作り無償でプレゼントをする活動です。運営も募金で賄われています。



髪を切る前の橋本さん



中一 橋本 彩音さん
お母さんがヘアドネーションの事を知ってみたいで私が伸びた髪を切りたいと話たら、「やってみなさい」と言われて 31cm以上になったのでお母さんと行きました。
今年お礼の年賀状が来て嬉しかったです。また喜んでもらえるようやりたいと思っています。

高一 田尻 智美さん
小学生の時、高校生の姉が髪を寄付したのをきっかけにヘアドネーションの事を知り、病気や事故で髪を無くした子のため、自分にも出来る事だと解り続けています。小6・中2と2回出来ましたが、次はもっと長い髪を送るために、2年後位に寄付が出来そうです。



人権フェスティバルにて発表の田尻さん (平成26年11月5日)

募集している毛髪について

JHD&C

<https://www.jhdac.org>

- 乾燥した状態で送る。
- パーマやヘアカラーしていても手入れしている髪であれば大丈夫。
- 年齢・性別に関係なく誰でも参加が可能。



調べたら平成23年9月に大阪のNPO法人ジャパンヘアドネーション&チャリティー (シャードック) が始めたそうで、“平成28年4月時点で提供者94名、持っている人の数は約110名。ヘアドネーション活動に賛同している「賛同美容室 (協力店)」の数は、海外の数店舗を含め500店ほどに広がっている。”とありました。県内の業者も34店舗ほど参加されてるようです。

初めて耳にされる方も多いのでは、私も最初は平成26年11月5日の人権フェスティバルに参加して、田尻さんの発表を聞き、感動したのを今でも覚えています。

それから昨年秋に村内の別の女子中学生が頑張って実行した事を知り、少しでも伝えたく、また新しくやって頂ける方が増えればと思い記事にしました。私も献血をしています、幸いにして健康であるならば、誰でもできるボランティアかと、取り組みを考えるきっかけになればと念じる次第です。



職場から こんにちは!

AmeYa

今回は熊本地震で被災され昨年3月、西原ニュータウンに移転オープンされた、AmeYaです。

オーナーの福山 綾さんに伺いました。

私は福岡の製菓専門学校を卒業後、福岡の製菓店で勤務していましたが、実家の西原村で自分の店を出したいという思いが強くなり、村へ帰ってきました。その後、山田牧場のソフトクリーム屋さんの道向かいの店舗を借り、手づくりキャンディーの店「AmeYa」を開きました。村内外のお客様から結婚式で使っていただき、とてもやりがいを感じていました。

その2年後、熊本地震で建物は全壊し閉店を余儀なくされました。地震を機に元々やりたかったケーキや焼き菓子を作れるような環境を整えたいと思い一年休業し現在の西原ニュータウンに自宅兼店舗を開店しました。震災後再び西原村にお店を出す事に不安もありましたが、生まれ育ったこの村に少しでも貢献できればと思いました。



笑顔の可愛い福山 綾さん

AmeYaの**キャンディー**は見た目は可愛く、味も10種類以上あり、幅広い方々に喜んでもらえる商品がたくさんあります。なかでも自家製蜂蜜を使用したハニーキャンディーや雪塩を使った塩キャンディーはおススメです。

焼き菓子はスノーボールやナッツを使ったお菓子など10種類ほどあり、チーズかりんとうは今までにない味わいで人気の商品です。

お誕生日ケーキなどのオーダーもご予約で作っており、お電話でも受け付けております。毎週金曜日にはシュークリーム・プリンなどの**生菓子**を販売しておりますので、機会がありましたら一度覗いてみてください。

ちょっとした贈り物や焼き菓子セットなどの**ギフトBOX**も予算に応じてご用意できます。

食べた方やもらった方が笑顔になっていただけるような、おいしくて可愛い商品をたくさんの方に届けられたら嬉しいです。

〒861-2402 熊本県阿蘇郡西原村大字小森618-8
 営業時間／11:00～17:00
 定休日／木曜
 電話番号／080-4319-4126
 メール／ameya.nishihara@gmail.com
 @ameya.nishihara

発行責任者	委員	委員	委員	副委員長	委員長
	宮田 勝則	村上 高志	堀田 直孝	林田 直行	中西 義信
広報委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
	坂本 隆文	坂本 隆文	坂本 隆文	坂本 隆文	坂本 隆文

新年、明けましておめでとうございます。広報委員会も新年を迎え、新たな気持ちで西原村の状況をわかりやすく読みやすく皆様に伝えたいと思っております。また、今年には西原村にとっても重要な復興の年でもあります。集落再生では皆様のご意見がそのまま図面に落とされ、今までも住みやすい集落になると期待しております。災害公営住宅の整備も進み、8月頃には引渡しができるのではと思っております。西原村は他の市町村よりも一歩前に進んでおります。これからも各集落に目を向け、各集落の人口が減らない、人口が増えるような取り組みもしていきたいので、村民の皆様のご知恵とご協力を宜しくお願い申し上げます。

坂本 隆文

編集後記